

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092300031		
法人名	社会福祉法人真福会		
事業所名(ユニット名)	グループホームはまゆう園 はまゆう1		
所在地	和歌山県新宮市新宮7683-109		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	令和2年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3092300031-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3092300031-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和2年10月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で生き生きとその人らしく暮らしていく事ができる支援を目指しています。施設が街なかに立地しているという利点があり、昔から馴染みのある商店街や仲ノ町へ散歩に出かけ、気分転換をしたり、社会に触れ合うことができるように努めています。海拔12mの高さに施設がある為地震の際の津波に備えることができます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から少し入った民家の一角にあり、商店街や公園も近くにある。事業所の真裏は高低差が約5メートル下に線路が走っているため汽車の音も殆ど気にならない静かな環境である。入居者は自由に屋外に出て散歩する際は、職員がそっと寄り添っている。民家が立ち並んだ環境であるため火災予防訓練には近所の消防団員にも協力を得ることが出来ている。各居室は掃き出し窓で採光も良く、扉を開放しても廊下からプライバシーを保てるよう配慮している。食事やおやつも手作りで音や匂いなど五感に良い刺激となる温もりのある空間作りを実践されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、方針を毎月のミーティングで唱和して確認している。日頃の指導の中でも理念を踏まえた指導内容を行っている。	地域に開かれた家庭的な暮らしを基本理念、基本方針とし、毎月のミーティングで唱和し管理者は日々の業務の中でも職員間で共有して言葉使いや対応について指導が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域に協力できる体制にしている。慰問がある際は、地域の方にも声かけしている。	施設は商店街の一角にあり自治会にも加入している。今年は感染症予防対策のため慰問や商店との連携はできなかったが、周辺への散歩は続けて良い協力関係は保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合の際に認知症についての理解を深めることができるよう施設の取り組みを紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、会議を開催し、利用者やサービスの実際、取り組み状況を報告して話し合いをしている。そこでの意見をサービス向上に活かすことができるように努めている。	運営会議は2ヶ月に1回の開催を目標にし、実際の取り組み状況の報告を行うとともに、参加者から意見を聞きサービス向上に生かすよう努めている。感染症予防対策のため開催を見送った際は施設の活動内容等を配布している。	今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため定期的な開催は困難であったが、多角的な方法で創意工夫により2ヶ月一回の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の状況を報告している。必要時には、相談報告を行い、協力関係を築くことができるように取り組んでいる。	地域包括支援センターの担当者も運営推進会議へ参加されており、事業所の取り組みや研修案内報告等協力関係を築くことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、理解を深めることができるようにしている。玄関は施錠していない。	玄関は施錠せず開放するなど身体拘束をしない取り組みを実践している。外部研修は今年は参加できず、施設内での対策について研修会を開催して周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	虐待防止について勉強会を行い、理解を深めている。言葉遣いや態度については、日々注意喚起して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修の機会を作り、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には、十分に時間をとって説明している。一つ一つの項目について不安や疑問がないか確認をとりながら、説明を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においてご家族代表の方から意見を聴取している。また、コロナウィルス感染対策の為面会ができず、電話でご家族から意見や要望を聞き取っている。	運営推進会議において家族代表の意見を聞いたり体調の変化時など家族へ連絡をしているが、コロナウィルス感染対策のため面会できずも窓越しの面会したり、ラインや電話で対応し関係を築くよう心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議の際に職員からの報告や意見を聞きとり、運営に反映している。	申し送りや会議の際に職員から報告や率直な意見を聞く場を設け、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の勤務状況を把握し、向上心を持って働くことができるように有休所得や昇給などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の勉強会を毎月実施し、すべての職員に参加を促している。新人職員に対しては、OJTをつけてトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新宮市連絡協議会やケアマネ会議に参加して同業者との交流を図ってスキルアップする機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で面談し、ご本人が困っていることや要望などを聞き取りしてご本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で面談し、ご家族が困っていることや要望などを聞き取りしてご家族の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で面談し、アセスメントを行い、支援の方法を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として敬い、経験談を伺って共に暮らす関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居した環境にあってもご家族の支援をなくしては、その人らしく暮らしていく事は、出来ないと考える為報告連絡相談は随時、行って共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を閉ざすことなく、生活できるように今まで利用していた理美容や病院へ送迎している。	馴染みの関係については、コロナ感染予防のため外出制限しており、美・理容については施設に来てもらっている。また専門医療機関への受診時は職員が付き添いを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を把握して仲の良い方が一緒に過ごせるように席順を配慮するなどして支え合える関係性を構築できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても転居先で情報提供が必要であれば提供している。看取りケア後は、グリーフケアに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いや暮らし方の希望を聞き取ることができるように意図的な質問を行って、意向の把握に努めている。	個別の担当者を決め、その日の様子を報告し合い、思いや暮らしの希望を聞き取ることができるよう意図的な質問(食べたいもの・生活の仕方)により把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時にまず、アセスメントを行い把握に努めてケアプランに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご利用者様と会話をしたり、状態観察をするなどして接している。その関わりの中から把握したことを職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討が必要な方について個別のケア方法を話し合い、意見やアイデアを出し合う機会を設けてケアプランに反映している。ご家族にも訪問時や電話にてケアの方向性について報告し、要望をお聞きしている。	毎月のカンファレンスや毎朝の申し送りで個別のケア方法を話し合い、意見やアイデアを出し合う機会を設けてケアプランに反映させている。ご家族にも面会時や電話でケアの方向性について報告し要望を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にご本人の一日の記録を記録している。ケアの気づきや実践の経過、結果も記録してケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のニーズに合わせて必要なサービスを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様のニーズに合わせて地域の社会資源を利用している。該当する方は、新宮市の紙おむつの支給を利用している。地域で活動している方々の慰問などを受け入れて豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を主治医として継続する。しかし、ご希望であれば別のかかりつけ医を受診できるように援助して適切な医療を受けられるように支援している。	以前からのかかりつけ医を主治医として継続している。希望に応じて別のかかりつけ医に受診したり、専門医療機関への受診も職員が付き添って適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の心身の状態を観察し、バイタルチェックを実施している。看護師が週に4回勤務している為情報提供し、相談する。状態の変化があればすぐにかかりつけ医へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院へ情報提供を行い、日ごろの状態などを伝えている。退院時には、病状や日常生活で注意すべき点などお聞きする為のカンファレンスを開催するように働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合や終末期のあり方について重要事項説明書を用いて説明している。主治医や看護師と連携して支援を行っている。	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について施設の重要事項説明書を用いて説明している。実際に終末期には家族にも泊まり込んでもらい看取りを経験している。状況に応じて主治医や看護師、家族と話し合いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時マニュアルを備えている。急変時の対応は、定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施している。訓練の際に近所の方にも参加して頂いている。訓練内容は、昼夜を問わない避難方法を検討して訓練している。	避難訓練を年2回実施し、訓練には近所の消防団員の方にも参加してもらい、訓練内容も昼夜問わない避難方法も検討しており、緊急避難施設も設定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護の研修の機会を作り、理解を深めている。	毎月行う会議の中でも人権・権利擁護の研修会を行っており、委員会を作り2ヶ月1回を目標にして言葉使いやプライバシーの確保など人権について理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当制にしており、関係を構築するように働きかけている。その中で思いや希望を表出できたり、自己決定を促すように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで暮らせるよう行動を制限していない。どのように暮らしたいかご希望を聞き、出来る限り沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意向に沿って衣類を一緒に選ぶ。買物を希望する方は、一緒に行くこともある。散髪は、園に美容師が来てくれるが馴染みの場所を希望する方は、送迎している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で食事の好みを聞き、メニューを決定する。可能な方は、食事の準備や後片付けを一緒に行っている。	普段の会話の中で食事の好みを聞き、メニューに反映している、嚥下困難者についてもできる限り食事を楽しんでもらえるよう工夫している。また可能な方には食事の準備や後片付けを手伝ってもらい食事を楽しんでもらうことに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合シートを使用して食事量、水分量を把握している。シートを検証して状態や力、習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自己にて行えない方は、介助を行う。夕食後は、義歯使用の方は、お預かりして洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合シートを使用して排泄の間隔を把握している。できる限りトイレで排泄する支援を行っている。	総合シートを使用して一人一人の排せつ間隔を把握し、できる限りトイレでの排泄を支援のうえ、おむつに頼らない支援を実践している。また便秘傾向の人にも個別に工夫して排泄リズムを整えるよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔を記録から把握している。便秘症の方は、毎朝ヨーグルトを摂取。医師の許可を得た方は、サンファイバーを購入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に通2回入浴を実施している。しかし、入居者様からのご希望があればできる限り、実施する。	週2回は、無理強いすることなく自然な言葉かけで促し、入浴してもらえるよう取り組んでいる。入浴を拒否される場合は本人の意向を聞き、時間をずらしたりと個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間は、決まっておらず一人一人の生活習慣に沿っている。日中、お昼寝をする場合は時間を見計らって声をかけ、起きて頂き、夜間の眠りを妨げないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに疾患や服薬情報を確認できるシートをファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を活かして出来る家事を行い、他者と交流して張り合いや楽しみを感じられるように支援をしている。感染対策の為外出イベントは開催できないが近所への散歩は、行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日は、出来る限り散歩や敷地内のベンチに出るなどして気分転換を図っている。	天気の良い日はできる限り周辺の散歩や敷地内のベンチに座って外気に触れるなど気分転換を図っている。今年は感染症予防のため地域行事や商店街への外出はできていない。	今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため外出や面会などの制限がみられたが、今後は状況を見ながら外出の機会を増やしていけるよう期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する方は、ご家族と相談して少額の所持金を管理している。購入したいものがある時は、可能な限り職員と一緒に買物に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙でやり取りするご希望がある時には、援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、共用空間は毎日、清掃を行い、清潔な環境整備に努めている。季節感を感じて頂くようにしつらえており、入居者様に適した室温に配慮している。	居室や共用空間は毎日清掃を行い、季節を感じられるよう飾り付けを工夫し、入居者の居心地の良い環境を整えている。今年は感染症予防対策のためフローアの椅子など配置換えしているが違和感のないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のあちこちに椅子を置いてあり、好きな場所に座って他者と交流したり、独りで本を読むなどできる環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは、危険なもの以外は自由。馴染みの物を持って来ていただくようお願いしている。	居室には備え付けの家具以外にも一人ひとりに気に入った物や写真などの飾り付けをしている。中には位牌など大切な物を配置し居心地良い居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間は、手すりを伝いながら自由に歩ける空間である。トイレは、理解しやすいように表示している。		